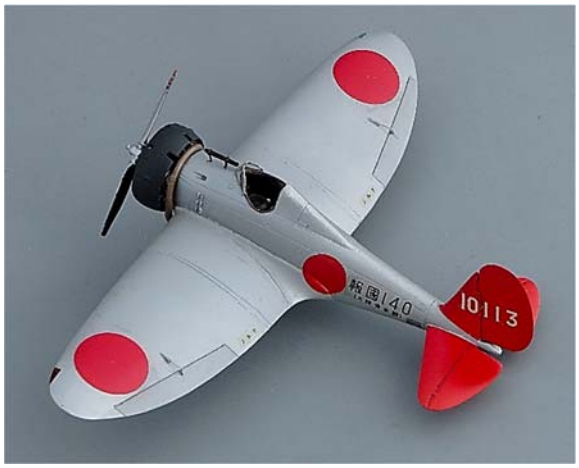
カタチには理由(ワケ)がある(1)

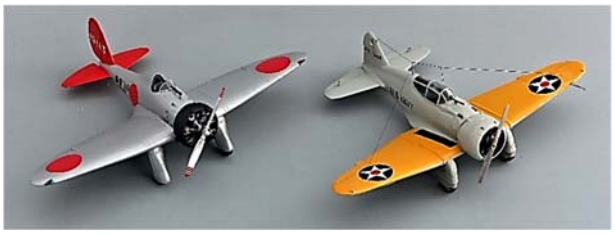
Shape follows Function & Taste

～三菱7試艦上戦闘機(A7M1)



[↑堀越二郎の次作、9試単座艦上戦闘機と]

[↓米海軍の XFT 試作戦闘機と]



本機7試艦上戦闘機は、1932年(昭和7年)に出した海軍の発注仕様に基づいて三菱が試作した機体です。主任設計技師は後に零戦を設計する堀越二郎。金属製の低翼単葉戦闘機として、当時としては画期的なデザインでした。当時のジュラルミン押し出し成型材などない時代に、堀越二郎が追及する、風に乗るような機体を設計すると、このように団扇のような形状になってしまうのかもしれません。結果やはり鈍重な機体となってしまい、性能的に十分な性能に達せず不採用になってしまいましたが、後日、彼が96艦戦、零戦へ向けての第一歩を踏み出したエポックメーキングな機体といえます。宮崎駿監督が、アニメの原作になった「風立ちぬ」(大日本絵画)で描いていますが、同作品に描かれたように実物はリベットごつごつの機体であったと思われます。なお、上で一緒に写したのは米国海軍のノースロップ XFT 試作戦闘機で、両機は低翼単葉+ズボン型スパッツという点でよく似ています。この7試単座戦闘機の初飛行は1933年2月、XFT のそれは同年12月(いずれもウィキペディアによる)で、本機の方が早く飛行しており、世界的にも先進的な機体でした。なお、本機に似た機体は「ルパン三世」第2シリーズ第145話の「死の翼アルバトロス」で登場しています。

【模型について】

ポーランドのコロジー(Choroszy)製 1/72 のレジンキットです。試作のみに終わった機体ですから、愛国機のマーキングは架空のものです。なお、9試単座艦上戦闘機はファインモールド製、XFT はメイントラックスのバキュームキットです。　　(中川裕幸　2021年1月・改定2025年8月)